



茨城県

なたねプロジェクト ～タネは命の循環～

基にしたモデル的なプログラム

なたねプロジェクト 見て食べて楽しんで！使った油はリサイクル

作成団体名

株式会社アレフ

地域プログラム化メンバー

認定NPO法人茨城NPOセンター・コモンズ、常磐大学、水戸市環境課、水戸市教育委員会総合教育研究所、いばらきESD実践研究会、茨城県生活学校連絡会、NPO法人茨城県環境カウンセラー協会

実証協力校

水戸市立新荘小学校

SDGsの要素



ESDの要素



能力／態度



●プログラムの概要

なたねをテーマに、ものを大切にすること（もったいない）、命の循環、家庭廃油循環の仕組みづくりを体験的に学びます。

- ①まず様々な種をつぶして油を抽出する実験などを通じて、種は命、エネルギーの源であることを学びます。
- ②人間の生活が種に依存していることや、廃油などが原因となった公害問題の歴史を講義形式で学びます。
- ③地域の店舗にヒアリングに行き、廃油処理方法を調べます。さらに、作成した廃油キャンドルを使用して、家族でコミュニケーションをとる時間を設けます。
- ④ワークショップ形式で学んだことや地域への提案をまとめ、発表します。

●プログラムの目標

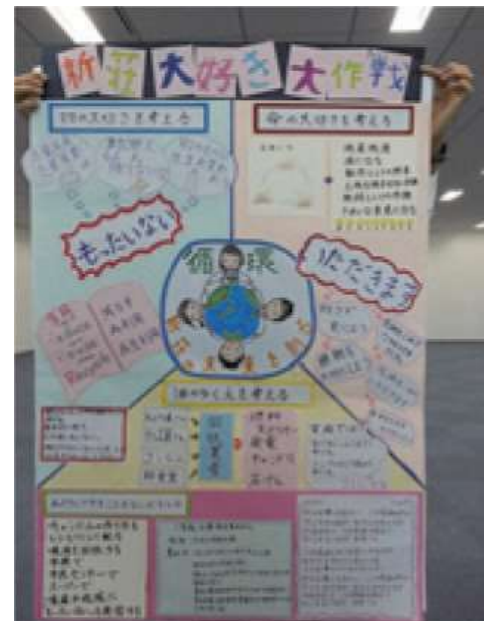
1. "もったいない"、"いただきます"、"家庭廃油循環"をキーワードに、ものや命を大切にすること、廃油の行方について学び、気づきを得ます。
2. 種と人間の関わり、地産地消、世界とのつながり、廃油利活用、ライフスタイルの見直し、3R、公害問題などを総合的に学びます。
3. 家族との関係を改めて見つめ直します。
4. 地域へのインタビューや発表を通じ、調べる力を伸ばし、地域とのつながりを意識します。
5. グループワークや発表を重ね、他者と協力する態度やコミュニケーション能力を伸ばします。
6. 家庭廃油循環のしくみづくりを通じ、批判的・総合的に考える力や、計画を立てる力を伸ばします。



廃油の活用方法について自分達にできることを考え、クラスで共有



廃油でキャンドル作りを体験



学んだことを"新荘大好き大作戦"としてまとめ発表

● 参加者の声

- ・ 廃油キャンドルの灯りを見て、普通の電気より何十倍、いや何百倍もの温かみを感じました。
- ・ 私たちの食べ物もちゃんと命があって、その命をいただいているのだから、残さず敬意を持って食べたいと思いました。

● プログラムの流れ

| | |
|-----------|---|
| ステップ 1 | 一粒の種から（導入） |
| ステップ 2 | タネをつぶしてみよう（実験） |
| ステップ 3 | 調べ学習（地域へのインタビュー） |
| ステップ 4 | 調べ学習のまとめと発表（ワークショップ） |
| ステップ 5・6 | ・ ナタネの一生と私たちの環境（講義） ・ ゴミにしない（講義） |
| ステップ 7 | 廃油を活かそう（ワークショップ） |
| ステップ 8 | 廃油キャンドルをつくろう（実験） |
| ステップ 9・10 | 学んだことをふりかえろう①② （ワークショップ&グループ発表と意見交換） |
| ステップ 11 | 地域に向けた提案をまとめよう |
| ステップ 12 | 地域に提案しよう（成果発表会） |